

琉球大学学術リポジトリ

1960年1月の安保条約改定時の朝鮮半島有事の際の 戦闘作戦行動に関する「密約」に係る調査関連文書 No.4

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-15 キーワード (Ja): 朝鮮半島有事, ロジャース国務長官 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43880



118

(1) (11月17日) 11月17日という返還目標日を設定
 したがって交渉を加速する必要がある。

何となく(1) 目標日という圧力を感じて交渉が
 早くなるのではないか(2) 越境地
 の懸念 特に横の向経路を目標日までに
 決めたいという傾向は依然としてある
 何となくの不安がある。

この方では交渉のペースを速くできる。
 今後の集団交渉はgive and takeに徹する。

(2) (交渉) 返還実現の相当長期向かい
 ことと覚悟すれば、大層な交渉の準備
 (世論変動の中で自派の準備)

正府の最高指導部が常に理解するよう
 当局が政治的に説明を怠らないうえに(従来)

交渉側は11月17日以前に交渉当局から上層部へ
 「自府の指導部、正府側に在り、今後何年か
 交渉のペースを速くできる。
 (11月17日) 11月17日という目標日設定は

自府の中心に沖縄の民心に impatience を配す
 のみであるとする。